

1 年生

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【学ぶ楽しさを味わうための工夫】

校外学習で動物園に行った際、事前に動物の名前（lion, elephant, rabbit など）を英語で学び、発音練習や簡単な会話練習を行うことで英語への親しみを深めた。また、3年生が作成した3ヒント動物クイズでは、英語のヒントを聞いたり絵を見たりする活動を取り入れ、グループごとに相談しながら答えを導き出す楽しさを味わった。発話に自信がない児童も、友達と積極的に意見を交換したり、ALTや教員からの追加のヒントを活用したりする中で徐々に笑顔が見られるようになり、英語を使うことへの抵抗感が和らいでいった。



(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

【安心して自分の思いや考えを伝えるための工夫】

ALTと教員によるデモンストレーションを通じて、活動の流れやゲームの進め方を具体的に示し、児童が安心して取り組めるよう配慮した。その結果、ゲームのルールを児童がきちんと理解できたため、活動中には自然に児童同士の助け合いが見られ、伝えたい、話したい英語が分からない児童には友達が小さな声でサポートするなど、互いにコミュニケーションをとりながら楽しく取り組む姿が見られた。また、クリスマスカード製作の活動では、色や形を表す英単語（例：「red」「star」）を学んだ後、「Red, please!」「Star, please!」といった簡単な文を使いながらALTに自分の希望や思いを伝える場面を設定したことにより、児童は進んでコミュニケーションを図り、英語を使うことを楽しんだ。



(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説3）

【インプットの工夫】

日付、曜日、天気、Response など、日常的に使える簡単な英語をイラストと読み方が書かれたカードとともに掲示し、視覚的にも分かりやすく工夫することで、児童が毎日自然に英語に触れる習慣をつくった。活動では、英語の音やリズムに親しむ機会を増やし、楽しく学べる環境を提供した。また、英語の歌を毎時間取り入れ、ALT の動きをまねしながら体を動かして歌うことで、リズムカルな英語に親しむと同時に身体的な楽しさも感じられる時間を設けた。このような工夫により、児童は英語を「学ぶもの」だけでなく「楽しむもの」として積極的に受け入れる姿が見られた。



2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○異学年交流を通じて上級生からのサポートを受けたり相談し合ったりする中で、英語を使うことへの興味が高まり、校外学習で見た動物の名前を積極的に英語で発話する姿が見られた。

○発話に自信をもてない児童でも、友達と協力して取り組むことで笑顔が増え、自然なコミュニケーションが実現した。校外学習では、英語を使うことに興味を持ち、積極的に言葉を発する姿が見られた。

●ALT とのやり取りが盛り上がりすぎ、一部の児童が活動の進行や次の指示を聞き逃してしまう場面が見られた。ALT とのやり取りを楽しむことは重要だが、全体でのルールや指示の共有が滞らないよう、指導計画に工夫が必要である。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

○季節の行事（クリスマスカード製作など）を英語活動に取り入れることで、児童が英語を生活の一部として楽しみながら受け入れる様子が見られた。

○簡単な表現（「Red, please!」「Star, please!」など）を通じて、ALT とコミュニケーションを取る場面が増えた。

○ゲーム活動では、児童同士の助け合いが促進され、協力しながら英語を使う姿勢が育まれた。

●クリスマスカード製作の活動では、児童がカードの装飾やデザインなど、作業自体に強く意識が向いてしまい、英語を使った言語活動が少なくなる場面が見られた。

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説3）

○毎日の簡単な挨拶や日常表現の繰り返しにより、英語への親しみが深まった。

○英語の歌を取り入れたことで、児童が英語の音やリズムに自然と慣れ親しむことができた。

●単語や表現には個人差があり、特に英語に苦手意識をもつ児童は活動のペースについていけず不安を感じる場面が見られた。